

献血件数及びH I V抗体・核酸増幅検査陽性件数

年	献 血 件 数 (検 査 実 施 数)	陽性件数 () 内女性 [] 内核酸 増幅検査 のみ陽性	10万件 当たり
	件	件	件
1987年 (昭和62年)	8,217,340	11 (1)	0.134
1988年 (昭和63年)	7,974,147	9 (1)	0.113
1989年 (平成元年)	7,876,682	13 (1)	0.165
1990年 (平成2年)	7,743,475	26 (6)	0.336
1991年 (平成3年)	8,071,937	29 (4)	0.359
1992年 (平成4年)	7,710,693	34 (7)	0.441
1993年 (平成5年)	7,205,514	35 (5)	0.486
1994年 (平成6年)	6,610,484	36 (5)	0.545
1995年 (平成7年)	6,298,706	46 (9)	0.730
1996年 (平成8年)	6,039,394	46 (5)	0.762
1997年 (平成9年)	5,998,760	54 (5)	0.900
1998年 (平成10年)	6,137,378	56 (4)	0.912
1999年 (平成11年)	6,139,205	64 (6)	1.042
2000年 (平成12年)	5,877,971	67 (1) [3]	1.140
2001年 (平成13年)	5,774,269	79 (1) [1]	1.368
2002年 (平成14年)	5,784,101	82 (5) [2]	1.418
2003年 (平成15年)	5,621,096	87 (8) [2]	1.548
2004年 (平成16年)	5,473,141	92 (4) [2]	1.681
2005年 (平成17年)	5,320,602	78 (3) [2]	1.466
2006年 (平成18年)	4,987,857	87 (5) [1]	1.744
2007年 (平成19年) (1月～6月まで集計)	2,456,788 (速報値)	40 (1) [2]	1.628

(注1)・昭和61年は、年中途から実施したことなどから、3,146,940件、うち、陽性件数11件(女性0)となっている。

(注2)・抗体検査陽性の血液は廃棄され、製剤には使用されない。

・核酸増幅検査については、平成19年10月より全国的に実施している。

(注3)・平成19年は、1月～6月までを集計した速報値。

第110回エイズ動向委員会の結果報告について

1 本日の委員会では、平成19年4月2日から7月1日までの感染症法に基づく患者・感染者報告並びに、平成19年4月から6月末までの病変報告（任意報告）を解析した。

2 今回報告された新規エイズ患者数（以下患者）は110件（前回81件、以下同じ）、新規HIV感染者数（以下感染者）は270（227）件であった。

（1）感染経路別

異性間の性的接触による患者38（25）件、感染者54（60）件、同性間の性的接触による患者45（25）件、感染者182（141）件、静注薬物濫用による感染者2（1）件、その他の原因による患者4（8）件、感染者3（6）件、原因不明の患者21（23）件、感染者31（19）件であった。

（2）性別

男性患者103（73）件、感染者251（206）件、女性患者7（8）件、感染者31（21）件であった。

（3）年齢別

患者は20代7（11）件、30代35（27）件、40代31（18）件、50歳以上25（25）件、感染者は10代1（2）件、20代83（53）件、30代123（100）件、40代38（46）件、50歳以上25（26）件であった。

（4）国籍別

日本人患者87（68）件、感染者245（200）件、外国人患者13（13）件、感染者25（27）件であった。

（5）感染地域別

国内で感染した患者87（64）件、感染者252（194）件、海外で感染した患者16（10）件、感染者14（23）件、感染地域不明患者7（7）件、感染者4（10）件であった。

（6）性的接触別、国籍別内訳

ア．異性間性的接触の内訳

患者38（25）件、感染者54（60）件のうち日本人男性は、患者30（15）件、感染者40（39）件、日本人女性は、患者2（4）件、感染者7（6）件であった。外国人男性は、患者5（3）件、感染者2（6）件、外国人女性は、患者1（3）件、感染者5（9）件であった。

イ．同性間性的接触の内訳

患者 45 (25) 件、感染者 182 (141) 件のうち日本人男性は、患者 43 (25) 件、感染者 175 (132) 件であった。

外国人男性は、患者 2 (0) 件、感染者 7 (9) 件であった。

(7) 国籍別、年齢別内訳

ア. 日本人男性年齢別内訳

患者 92 (64) 件のうち 20 代 7 (6) 件、30 代 30 (20) 件、40 代 31 (14) 件、50 歳以上 22 (24) 件であった。

感染者 237 (189) 件のうち、10 代 1 (0) 件、20 代 72 (43) 件、30 代 111 (86) 件、40 代 31 (38) 件、50 歳以上 22 (21) 件であった。

イ. 日本人女性年齢別内訳

患者 5 (4) 件のうち、20 代 0 (1) 件、30 代 0 (2) 件、40 歳代 1 (1) 件、50 歳以上 4 件であった。

感染者 8 (11) 件のうち、10 代 0 (1) 件、20 代 3 (4) 件、30 代 3 (3) 件、40 代 1 (0) 件、50 歳以上 1 (3) 件であった。

ウ. 外国人男性患者年齢別内訳

患者 11 (9) 件のうち、20 代 0 (3) 件、30 代 5 (3) 件、40 代 5 (2) 件、50 歳以上 1 (1) 件であった。

感染者 14 (17) 件のうち、20 代 0 (2) 件、30 代 5 (8) 件、40 代 5 (6) 件、50 歳以上 1 (1) 件であった。

エ. 外国人女性患者

患者 2 (4) 件のうち、20 代 0 (1) 件、30 代 0 (2) 件、40 代 2 (1) 件であった。

感染者 11 (10) 件のうち、20 代 5 (4) 件、30 代 4 (3) 件、40 代 2 (2) 件、50 歳以上 0 (1) 件であった。

(8) 感染地域別、国籍別内訳

ア. 国内感染

患者 87 (64) 件のうち日本人男性が 77 (56) 件、日本人女性が 4 (3) 件外国人男性が 4 (2) 件、外国人女性が 2 (3) 件であった。

感染者 252 (194) 件のうち日本人男性が 228 (173) 件、日本人女性が 7 (7) 件、外国人男性が 10 (11) 件、外国人女性が 7 (3) 件であった。

イ. 海外感染

患者 16 (10) 件のうち日本人男性が 9 (3) 件、日本人女性が 1 (1) 件、外国人男性が 6 (5) 件、外国人女性 0 (1) 件であった。

感染者 14 (23) 件のうち日本人男性が 6 (8) 件、日本人女性が 3 (3) 件、外国人男性が 4 (6) 件、外国人女性が 4 (6) 件であった。

3 任意報告より

(1) キャリア等からエイズ患者になったとの報告は 3 (0) 件であった。

(2) 患者・感染者の死亡は、AIDS が原因は 6 (2) 件、それ以外は 3 (0) 件であった。

4 検査・相談件数

平成 19 年 4 月から 6 月末までの保健所等における H I V 抗体検査件数は 37,143 (33,148) 件、うち自治体を実施する保健所以外の検査件数は 7,029 (6,840) 件、保健所における相談件数は 51,988 (49,132) 件であった。

5 献血による H I V 陽性件数

平成 19 年 1 月から 6 月末までの献血件数 2,456,788 件 (速報値) のうち、H I V 陽性件数は 40 件であった。

委員長コメント

【平成 19 年第 2 四半期】

- 1 今回の報告期間は平成 19 年 4 月 2 日から平成 19 年 7 月 1 日までの 3 か月である。法定報告に基づく新規 HIV 感染者報告数は 270 件（うち男性 251 件、女性 19 件。前年報告 227 件、前年同時期 248 件）で、過去最高である。
一方、新規 AIDS 患者報告数は 110 件（うち男性 103 件、女性 7 件。前年報告 81 件、前年同時期 106 件）で過去 2 位である。
- 2 感染経路別に見ると、新規 HIV 感染者では同性間性的接触によるものが 182 件（全 HIV 感染者報告数の約 67%）と最も多く、そのうち 175 件が日本国籍男性であった。
また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 54 件（全 HIV 感染者報告数の 20%、うち男性 42 件、女性 12 件）である。
一方、新規 AIDS 患者では同性間性的接触によるものが 45 件（全 AIDS 患者報告数の約 41%）、異性間性的接触によるものが 38 件（全 AIDS 患者報告数の約 35%、うち男性 35 件、女性 3 件）である。
年齢別では、新規 HIV 感染者は 20～30 代が多数（約 76%）を占め、新規 AIDS 患者は 30～50 代と広く分布している。
要約すると、感染者・患者とも 92%以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が約 60%を占めている。
- 3 平成 19 年 4 月～6 月末までの保健所における HIV 抗体検査件数は 30,114 件、自治体が実施する保健所以外の検査件数は 7,029 件、保健所等における相談件数は 52,008 件となっており、いずれも前年同時期より大幅に増加した。
- 4 平成 19 年 1 月から 6 月までの献血件数（速報値）は 2,456,788 件（前年同時期速報値 2,480,063 件）で、そのうち HIV 抗体・核酸増幅検査陽性件数は 40 件（前年同時期速報値 48 件）であった。10 万件当たりの陽性件数は 1.628 件（前年同時期速報値 1.935 件）で、前年より減少した。
- 5 新規 HIV 感染者報告数を感染経路別に見ると、男性同性間性的接触は依然半数を超えている。また年齢別では、20～40 代に HIV 感染が広がっているものの、前年と比べて 40 代以上の AIDS 患者の増加傾向を認めた。また、検査・相談件数の増加については、昨年 HIV 検査普及週間及び世界エイズデー期間前後に大幅に増加した後も高い水準で維持したまま、2 回目となった本年の HIV 検査普及週間前後にさらに大幅に増加した。HIV 検査普及週間に限れば、平成 17 年同時期と比較すると検査件数が約 2.7 倍、相談件数が約 2.1 倍と大きく伸びているだけでなく、6 月の月間検査件数、相談件数は昨年大きく伸びた 12 月の検査件数よりも上回っている。これらのことを合わせて考えると、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業による検査体制の整備について一定の成果が認められる。

一方で、検査・相談件数が減少に転じている自治体もあり、今後も全国的に検査・相談件数の増加傾向が持続するのか注視していく必要がある。

- 6 各自治体においては保健所等を中心に、さらに利用者の利便性（夜間・休日・迅速検査）に配慮した検査・相談事業を推進し、予防に関する普及啓発に努めることが重要であり、HIV感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制に努める必要がある。検査件数の増加に伴いHIV感染者・エイズ患者の報告が増加していることから、地域の実情に応じて告知後の支援・相談及び医療提供体制の更なる充実を図ることが急務である。

また、国民はHIV・AIDSについての理解を深め、身近な問題として積極的に予防に努めるべきである。早期発見は、個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、HIV抗体検査・相談の機会を積極的に利用していただきたい。